

Slovenia Monthly July 2019



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年8月21日

～7月の主なポイント～

- 内政：** 左派、政府の政策変更を要求
政府、欧州委員候補を任命
- 外政：** シャレツ首相、ベルリン・プロセス首脳会合に出席
北マケドニア大統領のスロベニア訪問
- 経済：** フィッチ、スロベニアの格付けをAに格上げ
- 治安：** 不法入国件数、増加傾向

政治

【内政】

●国民議会保健委員会、タバコ製品パッケージ統一化の実施延期提案を否決【1日】

1日、国民議会保健委員会は、議員グループが提出したタバコ製品パッケージ統一化の実施延期提案を、賛成6票、反対8票で否決した。同提案は、連立与党所属の議員及び野党新スロベニア(NSi)所属の議員2名により提出されたもので、2017年に採択された法律に基づき、2020年に開始される予定のタバコ製品パッケージ統一化を、2023年まで延期させることを目的としたもの。同提案を巡っては、6月27日、政府は、「タバコ製品パッケージ統一化により、若者と女性をはじめとする消費者に対し、タバコ製品のアピールを減らすことができる」として、パッケージ統一化延期に反対する見解を発表していた。

●年金者党、党大会を来年1月に開催【8日】

連立与党の一角を担う年金者党(DeSUS)は、来年1月17日に党大会を開催することを決定した。党大会では党首選も実施される予定で、2005年から同党党首を務めるエリヤヴェツ党首は、記者団に対し、「(党大会は)まだ先の話であり、現時点で自分が党首選に出馬するかについて言及するのは時期尚早である」と述べた。

●私立小学校助成に関する改正法案、否決【10日、15日、18日】

18日、国民議会は、政府が提出した私立小学校助成に関する改正法案を否決した。可決には議員定員の過半数である46票の賛成票が必要だったが、投票では3票足りず、否決されることとなった。同法案は、これまで政府が、独自のカリキュラムも含めた私立小学校の全プログラムの85%を助成していたものを、今後は独自プログラムを除く公的プログラム部分のみに対して100%助成することを目指したもので、私立小学校が国から受け取る助成金がこれまでよりも減少する見込みとなり、野党をはじめとして改正法案に対する反対意見が多く出ていた。同改正法案を巡っては、7月10日の国民議会における投票は、賛成42、反対36で可決していたが、15日、国民評議会は同改正法案の承認を拒否し、国民議会に法案の差し戻しを行っていた。

●シャレツ首相、次年度予算案を政府への信任投票とする可能性に言及【11日】

連立与党各党は、次年度予算案に関する会合を開催した。会合終了後、各連立与党関係者は、シャレツ首相が議会における予算案に関する投票を政府への信任投票とする可能性につき言及した。最大与党マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)のゴルボビッチ副院内総務は、「現政権は少数政権であり、首相が信任

投票で政府への支持を確認することは論理的であると述べた。また、年金者党(DeSUS)のユルシャ副院内総務も信任投票となる可能性は十分であると述べたほか、現代中央党(SMC)のゾルチッチ副院内総務は「予算案は本年秋の最大の政治的 이슈となる。特に、シャレツ首相が進退をかけるとしたらなおさらである」と述べた。

●左派、政府の政策変更を要求【13日】

政府に閣外協力を行う左派は、党内会合を開催し、連立与党と左派が署名した協力合意事項が実施されず、政府が右派的政策を放棄しないのであれば、左派は2020年度予算案を支持しないと結論に至った。会合後、同党のメセツ党首は、「左派が政府を支持することを決定したのは、政府が協力合意を遵守し、左派が追求する優先事項が実現すると期待したからである。新自由主義的政権が何年も続いた後、ついにスロベニアで、貧困層への支援をためらわず、社会福祉的問題の解決に取り組み、環境政策を有する中道左派政権が誕生したと思ったが、これらの目標は依然として何も達成されていない」と述べ、現在の政府との協力にあらためて不満を表明した。



メセツ左派党首 (Photo: Nebojša Tejić/STA)

●EU議長国に向けた準備会合の開催【17日】

政府は、2021年後半のスロベニアのEU議長国任期のための準備会合をブルドーで開催した。同会合では、法の支配、持続可能な開発、西バルカン地域の安定を任期中の最優先課題とすることで一致した。政府は、今回の会合でまとまった最優先課題を8月の閣議で正式決定する予定。

●政府、欧州委員候補を任命【26日】

26日、政府は、ヤネズ・レナルチッチ駐EU大使(Janez Lenarčič)をスロベニア選出の次期欧州委員候補に任命した。同氏の任命は、18日に政府が閣議において、レナルチッチ氏を候補者に指名し、25日に国民議会EU問題委員会が同氏の指名を承認したことを受けて行われたもの。シャレツ首相は、「自分は5月の欧州議会選挙以降、様々な意見を聞き、(複

数政党による連立政権という)政府の構成を考慮し、スロベニアには中立的な候補者が必要だと結論に至った。欧州議会選挙では、マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)と社会民主党(SD)がそれぞれ2議席ずつ獲得したため、どちらか一方の政党から候補者を出すのは公平ではないと考えた。これまでにスロベニアは様々な機会を逸しており、(現EU大使として)EUの業務に精通する人物に機会を与えることが正しいと考える」と指名の理由を説明した。



レナルチッチ欧州委員候補
(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

【外政】

●スロベニア、イタリアと合同国境パトロールを開始【1日】

7月1日から、不法移民対策の一環として、スロベニア及びイタリア警察当局による合同国境パトロールが開始された。同パトロールは両国間で署名された合意に基づき行われるもので、9月30日までの実施が予定されている。スロベニア警察当局によると、合同パトロールは週4回行われ、3回がスロベニア国境側、1回がイタリア国境側のパトロールとなる予定。

●ツェラル外相のフランス訪問、戦略的パートナーシップに関する行動計画に署名【2日】

ツェラル外相は、フランスを訪問し、ル・ドリアン仏外相と会談を行った。会談において、両外相は、2019～2022年の両国の戦略的パートナーシップに関する行動計画に署名した。ツェラル外相は、「スロベニアにとって仏は5番目の貿易相手国であり、本パートナーシップは、科学、イノベーション、ICT及びAIに焦点を当てている。今後こうした分野における協力強化が期待される」と述べた。そのほか、両外相は、国際情勢における多国間主義の重要性、EU拡大、移民問題を含めたEU情勢等につき意見交換を行った。なお、ツェラル外相は仏滞在中、グリアOECD事務総長とも会談し、スロベニアの2021年EU議長国就任に向けた、スロベニア・OECD間の協力について意見交換を行った。

●セルビア議会議長のスロベニア訪問【2日】

ジダン国民議会議長は、スロベニアを訪問したゴイコビッチ・セルビア議会議長と会談し、二国間の協力及びEU拡大を中心に意見交換を行った。ジダン議長は、西バルカン地域へのEU拡大は、地域の平和と安定に大きく寄与するとして、スロベニア国民議会は、セルビア議会がEU基準を満たすための支援を行う用意があると述べたほか、2018年の両国間貿易額が前年比14%増加していることを歓迎した。また、ジダン議長は、本年5月にスロベニア在住のセルビア人の団体「Union of Serbs of Slovenia」が設立されたことを歓迎し、今後、同団体を通じ、旧ユーゴスラビア諸国における各コミュニティの文化的アイデンティティに関する協力促進がはかれることを期待すると述べた。ゴイコビッチ議長は、両国の経済関係及び投資が促進されていることに満足の意を表したほか、セルビアのEU加盟プロセスに関するスロベニアからの支援に謝意を表明した。



(Photo: 国民議会ホームページ)

●シャレット首相、ベルリン・プロセス首脳会合に出席【5日】

シャレット首相は、ポーランドのポズナンで開催された第6回ベルリン・プロセス首脳会合に出席した。西バルカン諸国6か国のほか、同プロセスに参加するEU加盟国の首脳が参加した首脳会合において、シャレット首相は、「EUと西バルカン地域の格差を克服するためには、戦略的な決定と経済的措置により、政治的なメッセージを送る必要がある。(アルバニア及び北マケドニアに対する)EU加盟交渉開始に関し、本年秋に適切な戦略的決定が下されることを確信している」と述べた。また、同首相は、「(西バルカン諸国のEU加盟につき協議する)ベルリン・プロセスは非常に活動的で、必要とされているものである。同プロセスが孤立してはならない。EUと西バルカン諸国は強いヨーロッパという目標を共有しており、今こそ正にその目標を実行に移すタイミングである」と述べた。なお、同会合の機会に、シャレット首相は、グリアOECD事務総長とも会談を行った。



(Photo:European Western Balkans)

●パレスチナ外務・移民庁長官の訪問【10日】

ツェラル外相は、スロベニアを訪問したマーリキー・パレスチナ外務・移民庁長官と会談を行った。会談後、ツェラル外相は、「EU加盟国の中で、パレスチナを国家承認する小グループを形成することを念頭に、国家承認に向けた努力を引き続き継続していく。これは、我々の外交政策の柱となる目標のひとつである」と述べたほか、「スロベニアは、国際機関においてパレスチナを支援していくほか、財政的・人道的支援も行っていく」と述べた。マーリキー長官は、「スロベニアがパレスチナを国家承認する意思があることは承知しており、適切なタイミングを見計らっていると理解している。近々、そのような時期が来ることを期待している」と述べた。その他、両者はパレスチナ・イスラエル関係を含む中東情勢についても意見交換を行った。

●スロベニア、INSTEXへの参加を表明【15日】

ツェラル外相は、本年1月にドイツ、フランス、英国が設立したイランとの貿易を行うための特別目的事業体である「貿易取引支援機関(INSTEX: Instrument for Supporting Trade Exchange)」にスロベニアが参加する予定である旨発表した。ツェラル外相は、「スロベニアは同機関を支持しており、スロベニア経済を利するものであることから、同機関への正式な参加を予定している。同機関を意義あるものにするためには、まずはイラン核合意の遵守、イランとの正常な関係、そして地域の平和と安定が必要である」と述べた。INSTEXに関しては、ドイツ、フランス、英国の設立3か国を含む、EU加盟12か国が参加に関心を有している。

●北マケドニア大統領のスロベニア訪問【15日～16日】

15日、スロベニアを訪問したペンダロフスキ・北マケドニア大統領は、パホル大統領と会談し、主に北マケドニアのEU・NATO加盟プロセスにつき意見交換を行った。パホル大統領は、北マケドニアのEU・NATO加盟への支持を表明し、「EUは次の欧州理事会

において北マケドニアとの加盟交渉開始日を設定すべきである。これは西バルカン諸国全体に影響を与える戦略的な事案である」と述べたほか、「北マケドニアのNATO加盟については、加盟29か国中、21か国が加盟議定書を批准しており、順調にプロセスが進んでいる」と述べた。ペンダロフスキ大統領は、EU及びNATO加盟プロセスにおけるスロベニアからの政治的・技術的支援に謝意を述べるとともに、あらゆる分野において両国は協力促進の余地がある旨述べた。なお、ペンダロフスキ大統領は、滞在中、シャレツ首相、ジダン国民議会議長等とも会談を行った。

●次期駐日大使インタビュー【24日】

ポラック＝ペトリッチ次期駐日大使(Dr. Ana Polak Petrič)は、スロベニア通信のインタビューに応じ、次期駐日大使としての抱負を述べた。同氏は、新体操の元ナショナルチームメンバーであり、オリンピックに出場経験はないものの、同競技の国際審判員を務めた経歴を有している。1999年に大阪世界選手権において審判員として初めて訪日した同氏は、当時を振り返り、「日本での滞在は良い思い出ばかりで、また、日本人の時間を守る几帳面さ(punctuality)に感銘したことを良く覚えている」と述べた。また、ポラック＝ペトリッチ氏は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会及びそれに向けた準備が、4年間の大使としての重要な任務の一つとなるであろうと述べたほか、「同大会に際し、1964年の鞍馬種目の金メダリストであるミロ・ツェラル氏がオリンピック担当大使に就任予定であるが、こういった1964年東京大会のメダリストが関与する国は他にはないであろう。『スロベニア・ハウス』の会場は選定済みであり、準備も進んでいる。本年秋には、スロベニアのオリンピック・パラリンピック両委員会及びスロベニア観光庁関係者も訪日予定である。同大会が特別なものになるよう、自分は次期大使として尽力したい」と抱負を述べた。



ペトリッチ次期駐日大使
(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

経済

【経済一般、指標・統計】

●欧州委、本年のスロベニアの経済成長率を上方修正【10日】

欧州委員会は、夏季経済成長予測を発表し、本年のスロベニアの経済成長率予測を前回の3.1%から3.2%に上方修正した。一方、2020年については2.8%との予測を据え置いた。欧州委員会の予測によると、本年のスロベニアの経済成長は昨年より4.5%から減速する見込みではあるが、本年前半の経済成長は引き続き堅調で、雇用及び賃金の伸びにより消費は好調である。なお、EU平均の経済成長予測は本年が1.4%、来年が1.6%、ユーロ圏は本年が1.2%、来年が1.4%との予測であり、スロベニアの経済成長予測はこれらを上回っている。

●フィッチ、スロベニアの格付けをAに格上げ【20日】

格付け会社フィッチ(Fitch)は、スロベニアの格付けをこれまでのA-（安定的）からA（安定的）に格上げした。フィッチは、公的債務の削減、財政黒字化、堅調な経済成長を格上げの理由として挙げた。格上げの知らせを受け、ベルトンツェル財務大臣は、「本年4月のMoody'sによる『安定的』から『ポジティブ』への見通しの上方修正、そして本年6月のS&Pによる格上げに続き、今回、スロベニアの好ましい経済状況がフィッチにも認められた」とのコメントを発表した。

●グローバル・イノベーション・インデックス、スロベニアは31位【29日】

世界知的所有権機関(WIPO)及びビジネススクールのインシアード(INSEAD)は、2019年グローバル・イノベーション・インデックス(GII)を発表した。129か国を対象とした同インデックスにおいて、スロベニアは前年より1つ順位を下げて31位となった。なお、1位はスイスで、以下、スウェーデン、米国、オランダ、英国と続き、日本は15位であった。

【企業、産業の動向】

●ルノー「クリオ5」の生産開始【3日】

スロベニア南東部ノヴォ・メスト市に所在する仏自動車大手ルノー傘下の自動車組立企業レヴォス社(Revoz)は、第5世代となる新型ルノー・クリオの生産を開始した。工場建設にかかる投資額は9000万ユーロで、スロベニア政府は600万ユーロの支援を支出する。操業開始式典には、シャレツ首相及びポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が出席し、シャレツ首相は、「レヴォスは過去60年間にわたりスロベニアの自動車産業を牽引してきており、スロベニアが誇る企業である」と述べた。レヴォス社社長によると、同社は1995年より200万台以上のクリオの生産を行っ

てきており、スロベニアにおいて最も人気の高いモデルのひとつ。

●スロベニアの有機農業、着実に増加【7日】

統計局の発表によると、2018年に有機農場として登録されている農家は3320軒で、前年比4%増であることが明らかになった。農家全体の中で、有機農場に認定されている農場の占める割合は4.8%であるほか、有機栽培の農産物の生産量も増加しており、2018年の生産量は2万9000トンで前年比27%増加した。



(出典: スロベニア統計局)

●政府、複数の投資案件に対する補助金を検討中【13日】

カンタルティ経済開発・技術副大臣は、スロベニア通信(STA)の取材に対し、現在、政府はいくつかの投資プロジェクトに関し、国内外の投資家からの補助金申請を精査していると述べた。同副大臣は、その例として、スコットランド企業「BSW Timber」社による製材所への投資、トルコ企業「Yildiz Entegre Adria」社による合板製造分野での投資を挙げたほか、現在審査中の最大の案件としてノヴォ・メスト市に本社がある自動車部品製造業「TPV」社の投資案件を挙げた。また、同副大臣は、中国の「Hisense」社から、同社が所有する大手家電「Gorenje」社のテレビ製造工場案件に関して正式な申請を待っているところであると述べた。

●競争保護庁、日刊紙出版社の統合を承認【29日】

競争保護庁は、国内の日刊紙シェア第2位のドネウニク社と第3位のヴェチェル社の統合を承認した。両社は、それぞれ日刊紙を発行しており、ドネウニク紙の発行部数は21,000部、ヴェチェル紙は19,000部。両社の統合により、出版市場の40%のシェアを占めることになる。なお、日刊紙ドネウニク紙とヴェチェル紙は今後もそれぞれ別の日刊紙として発行される予定。ドネウニク社のレイシャック編集長は「両社の統合は双方の日刊紙の歴史にとって最も重要な決断のひとつである。この決定は、日刊紙が生き残るために行われたものである」と述べた。

※掲載内容は、スロベニアの報道をまとめたものです。

発見！スロベニア

ファーストレディーの故郷に夫人の彫像が登場

米国のファーストレディーであるメラニア・トランプ大統領夫人がスロベニア出身であることは、マンスリーをご覧になっている皆様には周知の事実かもしれませんが、この度、メラニア夫人の故郷である国内南東部のセヴニツァ村(Sevnica)にメラニア夫人の彫像が登場しました。



(Photo: Rasto Božič/STA)

この彫像は、米国人芸術家のブラッド・ダウニー氏(Brad Downey)の発案により作られたもので、メラニア夫人をモデルとした初めての彫像であるとのこと。

なお、セヴニツァ村は、メラニア夫人にちなんだ様々な商品売り出し中で、この村ではメラニア・ケーキ、ファーストレディー・パイ、ファーストレディー・ワイン等が売られています。



メラニア・ケーキ



ファーストレディー・パイ

メラニア夫人により知名度が大きく向上しているセヴニツァ村ですが、この村には16世紀の美しいお城が建っており、事前予約をすれば城内も見学が可能です。一度、足を運ばれてみてはいかがでしょうか？



セヴニツァ城

スロベニアに迫る！ 若くして悲運の死を遂げた天才医師

皆様は、マルコ・ゴディナという名前をご存じでしょうか。ゴディナは、スロベニア出身の天才形成外科医で、医学界に革命をもたらした人物です。

ゴディナは、1943年にリュブリャナで生まれました。高校でラテン語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、英語など、様々な言語を学んだゴディナは、リュブリャナ大学で医学の勉強を開始し、その後、クロアチアのザグレブ大学医学部に編入しました。学生時代から、その才能の片鱗を見せていたゴディナは、唇裂(口唇部の先天性顔面奇形)に関する研究プロジェクトで国から表彰を受けました。

1971年、ゴディナはリュブリャナにある大学病院の形成外科・やけど部門(University department of Plastic Surgery and Burns in Ljubljana)で医師としてのキャリアを開始し、翌年には世界で初めて切断された親指の再建術を行ったイギリスのジョン・コベット医師、さらにその翌年には、再建術のパイオニアであるスコットランドのロバート・アクランド医師の下で学びます。



マルコ・ゴディナ医師 (出典:www.delo.si)

1985年にはリュブリャナ臨床センターの形成外科・やけど部門の部門長及び教授に史上最年少の若さで抜擢されます。彼のライフワークは、まさに、532人に行ったという損傷後の再建微小術の経験で得られた、微小血管フリー組織移植という手術法でした。これは、現在では緊急遊離皮弁と呼ばれ、それまでは切断を余儀なくされていたような外傷や、腫瘍切除後の組織再建のために、血管付きでの別の部位から組織を移植する方法です。血管を残すことで血流を再開し組織の壊死を防ぐことができる画期的な手術方法でした。

このゴディナの示した革命的なコンセプトは世界中に広まることとなり、多くの形成外科医が「リュブリャナ・メソッド」を直接学ぶために彼の元を訪れました。彼は数々の新しい手術法を成功させた素晴らしい外

科医であると同時に、多くの形成外科医にとっての友人であり、また素晴らしい教育者でもありました。

しかし、そのゴディナを突如悲劇が襲います。1986年2月、ゴディナはドイツからの出張の帰路、クロアチアのザグレブ空港に降り立ち、車でリュブリャナに向かいました。雨と雪が降る悪天候の中、ゴディナをザグレブまで迎えにきた夫人を乗せた車は、リュブリャナまで25kmの地点で、バスを抜こうとした他の車と衝突し、ゴディナは43歳の若さで帰らぬ人となりました。

ゴディナの早すぎる死は医学界に衝撃を与えたことは想像に難くありませんが、現在でもゴディナ医師の功績を讃え、米国マイクロサージャリー会議(ASRM: American Society for Reconstructive Microsurgery)は、彼の名にちなんだ奨学金「Godina Travelling Fellow」を提供しています。

参考文献: Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery (2007) 60, 1171-1172

軍事・治安情勢・危険情報

●不法入国件数、増加傾向【5日、19日】

警察当局によると、本年前半(1月～6月)の不法入国摘発件数は5345件で、前年比47.1%増加となった。最も報告件数が多かったのは、コペル、ノヴォ・メスト、リュブリャナ警察で、パキスタン、アルジェリア、モロッコからの不法入国者が増加している。

19日には、クロアチアとの国境付近のイリルスカ・ビストリツァにおいて、アフガニスタン人を中心とした120人を超える不法移民が発見され、警察当局によりクロアチアに送還された。

●スロベニア軍、国境管理のため追加人員を派遣【22日】

スロベニア軍は、警察当局による国境管理支援のため、35名の軍人の追加派遣を行った。追加で派遣される部隊はコペル警察と協力して国境管理の任務にあたる予定。今般の派遣により、国内南部に派遣される軍人数は計130名となる。

●インフラ省、列車脱線事故の原因は分岐器の不具合と発表【26日】

本年6月25日にコペル近郊で貨物列車が脱線し、大量の灯油が漏れ出す事故が発生した件に関し、インフラ省は、線路の分岐器の不具合が事故の原因で

あった旨を発表した。インフラ省によると、事故の原因は特定されたが、分岐器が不具合を起こした原因については、今後の更なる調査を経る必要がある。プリモルスケ・ノヴィツェ紙によると、スロベニアにおける列車関連の事故は過去5年間で32件記録されており、その内、9件が脱線事故であり、3件が線路の分岐器の不具合によるもの。

社会・文化・スポーツ

●悪天候により各自治体に被害【8日】

異常気象により、スロベニア各地に被害が出ており、特に7月7日に国内中央部及び東部を襲った大雨、強風等は、国内63自治体に被害を及ぼした。各地で、農作物、森林に被害が出たほか、建物への浸水も発生した。最も被害が大きかったのは、ザゴリエ・オブ・サヴィ、ロガテツ、ロガシュカ・スラティナの3自治体で、プトウイでも深刻な被害が発生した。

●沿岸4自治体、共同で2025年欧州文化首都へ立候補【9日】

ピラン、コペル、ポルトロジュ、アンカランの沿岸4自治体の市長は、2025年欧州文化首都に共同で立候補する意向書に署名した。立候補のプロジェクト名は「Piran-Pirano 4 Istria 2025」で、「4」は4自治体と英語の「for」をかけたもの。これら自治体は多文化、若者・子供の教育等を協力の柱としている。

●SDGs達成度ランキング、スロベニアは12位【9日】

持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)とベルテルスマン財団は、持続可能な開発目標(SDGs)報告書を発表した。同報告書の達成度のランキングにおいて、スロベニアは162か国中12位にランクされた。スロベニアは、貧困の撲滅と、環境に優しいエネルギー源へのアクセスにおいて高評価を得た。開発・欧州結束政策政府事務局によると、栄養不足の改善、持続可能な生産と消費の提供、気候変動の緩和、海洋資源の保護等をスロベニアの課題としている。

●リュブリャナ、温暖化が最も早く進行する都市となる可能性【13日】

スイスの研究機関 Crowther Lab の予測によると、リュブリャナは世界で最も早く温暖化が進行する可能性がある。同機関によると、2050年までにリュブリャナの平均気温は3.5度上昇する見込みで、最も暑い月に限れば8度上昇する可能性がある。これは、リュブリャナが地中海北部とアルプス地方という温暖化による最も影響が出る地域の接点に位置することが原因で、中央ヨーロッパ及びバルカン半島も今後、気温の上昇が見込まれる。

●マリボル、環境世界大会に参加【28日】

スロベニア第二の都市マリボルは、世界の各都市及び住民が気候変動に関する取組を競う環境分野の世界大会「Climate City Cup」への参加を決定した。同大会は7月18日から11月18日の4か月間開催され、温室効果ガス排出量、モビリティ、エネルギー消費、持続性、循環性の5分野でのポイントで競われる。大会にはウィーン、ニューデリー、チューリッヒ等の各都市が参加し、本年12月にチリで開催予定の国連気候変動会議で表彰が行われる予定。

スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！

今回の紀行はスロベニアにて書いています。先週末、伝統的なマウンテンランニングの大会の1つ「グリントヴェツ(Grintovec)」の最後の大会が開催。しかし、荒天のため山頂まで上がることはならずマウンテンハットと呼ばれる山小屋までの短縮コースとなりました。それでも、ファンの多いこのレースは大雨にも関わらず、コース上の要所でスタッフやギャラリーが絶え間なく応援してくれ、わざわざ走りに来て良かったと心から思えるものとなりました。



グリントヴェツの
フィニッシュ地点



エーデルワイス。初めてみる
ことが出来、感動！



世界一高い場所にある？
天然プール

スロベニアではマスターズ（スポーツによって違いますが陸上競技は 35 歳以上）世代の選手が多くいます。僕は今年で 41 歳になりますが、僕よりも 1 回り近く上でも年々記録を伸ばしている選手や上位に常に食い込む選手が本当にたくさんいます。加えて、最近マウンテンランニング関連の大会もスロベニアでは年々増えており、愛好家もかなり増えている印象を受けます。参加者の数も増えているのでまず間違いないと言えるでしょう。

レースの翌々日、そんな彼らの強さの秘密に少し触れることが出来ました。マウンテンランニング国際連盟の理事で山のエキスパート。加えて僕の競技や遠征を度々助けてくれる良き友人でもあるトモ・スルフさん(Tomo Surf)に連れられ、グリントヴェツ近くの別の山へ。登山口から 1000m ほど登った先にある彼曰く「世界一高い場所にある天然のプール」へ連れて行ってもらいました。その登山ペースは今でもレースで通用するほどです。聞いてみると、以前は朝晩仕事の前後に毎日のように山に入り鍛えていたのだとか。レースに出る、出ないに関わらずそうやって山やスポーツに親しんでいる人がたくさんいるスロベニア。何よりそれが気軽に実践できるその環境が彼らの強さを生み出す源の 1 つであることは間違いありません。



トモさん、今回もとてもお
世話になりました。

今回の山行も 15 時に街で拾ってもらい、小一時間で登山口に到着。そこから 2 時間ほどの行程。降りてきて 18 時過ぎですが、今の季節のスロベニアの日の入りは 20 時過ぎ。仕事の後にこんなことが手軽に出来るしまうこの環境は本当に素晴らしいと思います。

それでは、また次号お楽しみに。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）
2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●当館フェイスブックより、イベントのお知らせや動画などの情報発信を随時行っております。

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>